



2016年3月29日

4月1日の「障害者差別解消法」施行を目前に
全国の現役アイメイト(盲導犬)使用者にアンケート調査

約9割の使用者が“嫌な思い(差別)”を経験 「入店拒否」の無い、やさしい社会を希望

日本初の国産盲導犬チャンピオンを育成した公益財団法人アイメイト協会調べ

日本初の国産盲導犬チャンピオンを育成した公益財団法人アイメイト協会(代表理事:塩屋隆男)はこのほど、同協会を卒業した全国の現役アイメイト(盲導犬)使用者を対象にしたアンケート調査を実施し、その結果を公表しました。本調査は、「障害者差別解消法」の施行(2016年4月1日)を目前に控え、同法の理念である差別の解消と障害者と健常者の「対話」に寄与することを目指して実施したものです。以下、調査結果のポイントを抜粋します。(調査の詳細は、別紙の調査報告書をご参照ください。)

【調査結果のポイント】

1. 約9割のアイメイト使用者が“嫌な思い(差別)”を経験

- ・「あなたはこれまでに、アイメイト(盲導犬)を理由に嫌な思いをしたことはありますか？」との質問に対し、「ある」と答えた人はじつに約9割(89.2%)にのぼりました。

2. うち、約8割が、「飲食店(居酒屋、喫茶店含む)」での入店拒否を経験

「宿泊施設(ホテル、旅館)」での宿泊拒否も約3割が経験

- ・アイメイト(盲導犬)を理由にした“嫌な思い(差別)”を経験した場所で最も多かったのは、「飲食店(居酒屋、喫茶店含む)」(78.9%)でした。「ある」と答えた人のうち、約8割の使用者が飲食店での入店拒否を経験しています。
- ・次に多かった「宿泊施設(ホテル、旅館)」も約3割(33.3%)の使用者が宿泊拒否を経験。さらに、「病院」(20.0%)や「タクシー」(13.3%)でも拒否された経験がありました。

3. 「障害者差別解消法」に期待することは、

「入店拒否、乗車拒否が無くなること」と「お互いを尊重する共生社会」

- ・「障害者差別解消法」に期待することとしては、「入店拒否、乗車拒否が無くなること」(28.4%)「お互いを尊重する共生社会」(27.5%)という2つの意見が多くありました。
- ・また、「差別の解消」(15.7%)「盲導犬に関する理解の拡大」(13.7%)「社会参加の促進」(12.7%)など、様々な場面での法的なバックアップに期待が寄せられました。

4. 周囲の方へのお願いしたいことの最多は、「触らないでほしい」「声を掛けなくてほしい」

- ・アイメイト使用者から周囲の方へのお願いとしては、「アイメイトに触らないでほしい」「アイメイト声を掛けなくてほしい」がともに最多で27.5%でした。
- ・次いで、「盲導犬について正しい理解をお願いしたい」「困っている時は手助けしてほしい

い」がともに 13.7%でした。

- ・また、「黙って写真を撮らないでほしい (3.9%)」「いたずらしないでほしい」(3.9%) といった周囲のマナーへのお願いもありました。

5. 居合わせた客のフォローで、入店できた例も

- ・店側の理解不足があったとしても、その場に居合わせた客のフォローによって無事入店できたといった心温かい事例もありました (以下)。

「食堂で『他のお客様に迷惑がかかりますので』と断られたが、周りにいたお客様が『誰も迷惑だなんて言っていない』と仰ってくださいました」

「いつも乗り合わせている他の乗客が『静かでおとなしい犬だから大丈夫よ』とフォローしてくれた (バス)」

「周囲にいた人たちが応援してくれた」

■「障害者差別解消法」が4月1日より施行

～盲導犬を理由とした入店拒否を、“間接差別”として禁止～

2016年4月1日より、「障害者差別解消法 (通称)」が施行されます。正式名称は、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」。障害を理由とする差別の解消を推進することにより、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指して、2013年6月26日に公布されました。

「障害者差別解消法」では、障害を理由とする差別を、『不当な差別』(直接差別、間接差別、関連差別)、そして『合理的配慮の不提供』と規定しています。盲導犬を理由とした入店拒否は、車いすや補装具などの障害に関することを理由にして区別や排除、制限をすることとなり、『間接差別』と明確に規定されています。(『間接差別』には、一見中立的な基準に見えるが、結果的に障害者に不利な結果をもたらすものも含まれます。)

また、「障害者差別解消法」のもう一つの特徴として、公共機関だけでなく、その対象を民間事業者にも広げたことが挙げられます。飲食店や商店、宿泊施設など、視覚障害者が日常的に利用する多くの商業施設において、そうした差別が解消されることが求められています。

■公益財団法人アイメイト協会について

1957年に日本初の国産盲導犬第1号「チャンピイ」を育てた塩屋賢一が創設。アイメイト (盲導犬) 育成、視覚障害者への歩行指導を通じて視覚障害者の自立支援を行い、社会参加を推進しています。東京都内 (23区) にありながらも、全国の視覚障害者にアイメイト歩行を指導。指導の対象は海外の方にも広がり、これまでにアイメイト協会が歩行指導したペアは延べ1,291組にのぼります (2016年3月12日現在・使用者とアイメイトのペアを1組と数えます)。

アイメイト協会では、日本にまだ盲導犬に関する法整備が整う前、日本の盲導犬が草創期の頃から長年にわたり、アイメイト使用者や支援者とともに盲導犬使用者への理解を社会に訴えてきました。

アイメイト協会出身の犬は、「盲導犬」ではなく、「アイメイト」と呼んでいます。アイメイト歩行は、十分に歩行指導を受けた視覚障害者の指示を受け、人と犬とが協同で安全な移動を実現します。その主体はあくまでも人にあります。そのため、アイメイト協会では、「私の愛する目の仲間」という意味を込め、「アイメイト」と呼んでいます。

■公益財団法人アイメイト協会の歩み

- 1948年 塩屋賢一が目隠しの生活を体験しながら、盲導犬の育成を独自の方法で始める
- 1950年 自宅に「日本盲導犬学校」を開き、「盲導犬研究会」を設立
- 1957年 塩屋賢一が国産第一号の盲導犬チャンピイを育成
- 1967年 日本盲導犬学校の施設を母体に(財)日本盲導犬協会が認可される
- 1971年 その後(財)東京盲導犬協会として新たに東京都からの認可を受ける
(1989年4月にアイメイト協会に改称)
- 2007年 アイメイトペア 1,000組に到達。チャンピイ活躍開始から50年
- 2011年 公益財団法人に移行

1957年国産盲導犬第1号チャンピイ誕生-----



車道と歩道の段差をチャンピイに教える塩屋賢一



河相冽さんにチャンピイとの歩き方を指導

塩屋賢一の想いは受け継がれています-----



車道と歩道の段差を教える



人通りや障害物の多い商店街での歩行指導。歩行指導員は生徒(視覚障害者)の後方から歩き方を指導する